

クラスの価値・クラスの質

財全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長 田中 雅道

◎観察可能な教師の影響

前号で、経験年数が長い保育者に受け持ってもらった幼児ほど、幼稚園段階でのテストポイントが高く、成人しての所得においても優位であるという結果を報告しましたが、教師の経験年数が単純に長いだけではないのかどうかは検討する必要があります。報告でも、例えば、経験のある教師は、教職にとどまることを自

ら選択し、教育に対する情熱が高いかもしれないし、教師の世代間調査で古い年代に育成された教師のほうが教師としての技能が優れているという結果を報告している研究者もいます。

したがって、現在勤めている教師を単に長く雇用することによって、幼児が優れた成績を得ると考えるのは危険です。しかし、教師の質の向上のためには、長期の雇用を前提とした教師育成プログラムの確立が必要です。

◎観察可能なクラスメートの影響

実験の設計として、生徒を無作為にクラスに割り当てたため、観察可能なクラスメートの特性が所得に与える影響を測定することは困難です。

しかし、クラスの質はどのクラスも均質であるということではなく、割り当てられたクラスが同じ条件であったとしてもクラスの質に変化が出てきている事例があります。ただ、中学生レベルになると小学生で割り当てられたクラスによるクラスの特徴効果は消失しており、長期に見れば割

り当てられたクラスによる影響は限定的であると見ることができません。

ただ、幼児期の『クラス規模』と『クラスの質』がテストへ与える影響は、高学年では消失しているにもかかわらず、『大人の結果』として『所得』などにおいてはクラスの質の影響が関連した結果に再浮上してきていることは今後の検討課題とされています。

幼児期の『クラス規模』と『クラスの質』が、テストへの効果としては高学年で消失するにもかかわらず、『大人の結果』として再浮上していることは興味深いものがあります。単純なテスト結果は小学校1学年で1.5ポイントの差が見られませんが、4学年ではその効果は見られなくなり、ところが大人になってからの所得においては優位の差が出ており、テスト結果と大人の効果間のこれらの分析結果が期待されています。

この問いに対しての推論として、第4学年で「努力、意欲」「自発性、獨創性」「非参加態度」「クラスの価値づけ」の4指標で無作為に抽出した生徒を教師が評価した結果は、第

8学年のテスト結果とはほとんど相関関係は見られなかったものの、幼児期の「クラスの質」「クラスの規模」とは相関関係が強く、「大人の結果」も大人になってからの所得とも強い相関関係が見られます。

このことは、幼児期に良質な教育を受けた子どもたちの結果として、テストの結果への効果は見られないものの、「努力、意欲」「自発性、獨創性」「非参加態度」「クラスの価値づけ」への相関関係は強く、その延長線上として「大人の結果・所得」とも強い相関関係を有しています。質の高い幼児期のクラスがテストという形では表れにくいものの、子どもたちの生涯にとっては非常に有効であることが論証されています。(つづく)

★財全日私幼研究機構

今後の会合等の予定

・平成25年1月24・25日

全国研究研修担当者会議

(京都・京都ガーデンパレス)